

こんげつ し きんがつきこうはん
今月の詩（三学期後半）

いちねんせい し
【「一年生」の詩】

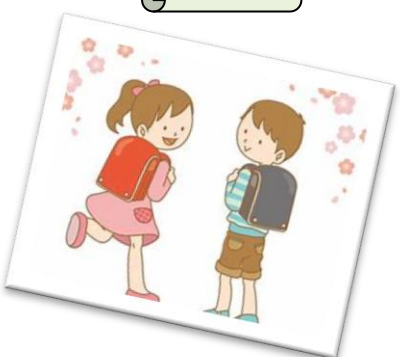
ねん 年

こえ はっぴよう
はつきりとした声で、発表しよう

いちからはじめる

にじゅういつせいき いちねんせい
二十一世紀の一年生に

谷川俊太郎



いちねんせい の いちは

いちねんせい の いちは

いちばんの いち

じぶんの こころ

いちから はじめて

どこをさがしても

どこまでも いける

ひとつしか ない



いちねんせい の いちは

いちねんせい の いちは

いちえんの いち

にせんいちねんの いち

いちおくこ あつまれば

きみと いっしょに

いちおくえん

おおきくなつていく



いちねんせい の いちは

いちにちの いち

あさから ばんまで

いそがしい



おうちの人と
いっしょに
よんでください。

一年間で「今月の詩」の課題は十。一年生のみなさんは、五月、文字の学習を間もない時期から「今月の詩」に取り組みました。すごいことです。そして、みなさんは、詩や言葉、リズムなども楽しみながら、何回も、校長室に来て、練習の成果を発表してくれましたね。一年生最後の詩は、「いちからはじめる」は、今のみなさんにぴったりの詩です。詩に込められたメッセージを感じながら、自信をもって発表してください。全員で声を合わせての発表もききたいな。

令和二年 二月 金森孝子